



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1934, 21(3): 238-242

ISSUE DATE:

1934-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184263>

RIGHT:

進歩をしめたもので挿畫に珍らしいものが多い。地圖の中にでも、平賀源内の萬國圖皿・安政三年の日本製地球儀などをはじめ著述された内外の地誌の名目が揃つてゐる。かうした三百年の文化の跡を學んで、はじめて明治維新以後の興隆日本が理解されることを喜ぶものは獨り筆者のみではあるまい。新春の讀本として一般の注意せんことを望むの情に堪えない。(藤川)

○長安史蹟の研究

東洋文庫編著二十の二 足立喜六著 圖版共十二圖

本書は東洋文庫からの近刊であるが、著者足立氏は明治三十九年陝西省西安府陝西高等學堂教習に赴任しられたが、四十三年春まで該地に滯留して得られた實地踏査の材料を纂輯し、桑原博士の校閲を得て本書をなしたものである。四六倍版二九一頁、圖版一六九、我等この書によつて陝西省に於ける長安古城址の現状を知ることの出来るのを喜ぶ。(藤川)

雜 報

○敦圖線

敦圖線といふのは敦化、圖們(灰幕洞改名)間のことであるが、新京から羅津に通ずる京圖線で北滿と日本とを連絡するものである。滿洲事變前は吉會鐵道問題といつて會寧から吉林に通ずる鐵道敷設が中心であり一九〇七年(明

治四十年)日清兩國に締結された吉長鐵道延長の約に始まり、明治四十二年には間島協約で第六條に清國政府は將來吉長鐵道を延吉南境に延長し、韓國會寧に於て韓國鐵道と連絡すべく、一切の辦法は吉長鐵道と一律たるべしと定められたが、大正七年に具體化して日本興業・臺灣・朝鮮の三銀行から吉會鐵道借款で一千萬圓を貸與したが、そのまゝにすぎで、大正十二年に右の借款がものを云ひ、吉林敦化間二二一桿が二千四百萬圓でできた、ところが中日合辦天圖輕鐵公司の經營した天圖輕鐵は大正十三年から會寧・老頭溝・天圖間をつけたから、吉會線の未成は老頭溝・敦化間境に百餘桿に過ぎざるに至つたが、事變前の排外排日で老敦間百桿は絶望に陥つた。所が滿洲事變となつてこの吉會線に注意が向けられた、地圖を見ても明なやうに北鮮と裏日本を結ぶ最短線であつて、大阪から敦賀經由、海路清津又は羅津に至り京圖線で新京に至る距離は大連經由に比して六六〇桿乃至七三〇桿の捷路となり、旅客輸送に二十一時間の短縮となる。そこで敦化からさきをどうするかといふことになつて種々計畫した結果昭和元年には羅津に出るのがよいときまり敦羅鐵道を決定した。

敦化から牡丹江を渡つて哈爾巴嶺に達する。こゝは間島の境である。そこは坦々たる平地である哈爾巴でトンネルを通じて布流哈通河に出ると、所謂延吉平野といふ大間島の沃野である。延吉から東南に進むと長白山の支脈で磨盤山の險がある、トンネル五ヶ所を通じて難工事を突破すると終端圖

們驛となる。もとは灰幕洞といったが改名して、圖們江を渡る日滿の紐帶たる圖們大鐵橋をすぐれば南陽驛である。この鐵橋は實に四二〇米、南陽から南に走つて會寧に達するものを圖們南線といひ、前述した天圖輕鐵からは全く別に獨立した線路が出来た。昭和八年五月以後敦圖線は營業を始めた。

ついで昭和七年五月圖們線の終端を羅津にきめたので、南陽驛から圖們江の南岸を迂回して羅津に達する圖們北線といふものが出来た、羅津築港は昭和十二年に出来上る豫定である。南陽から南して會寧に達する圖們南線は清津港に出て、海陸の聯絡にあたり南陽から穩城に出て、圖們江に沿う圖們北線は目下雄基に達し、遠からずして羅津に通ずるのである敦圖線の出来た外に拉法から拉賓線がハルピンに通じその北に海克線が出来たが、これは大黒河に通じる豫定であり、北票から熱河に入る線は遠からず赤峰・承德に達する豫定である。滿洲國の交通網は目下非常な勢で開けてゆくのである。そのうち敦圖線は日滿兩國の經濟的大道となつたわけである。

○支那農村の疲弊

支那は地大物博で四億の人口を包容する世界市場であるといふ概念が、支那人は勿論、世界的にも觀念されてゐるので政治的にも、經濟的にも列強の競争があり、支那も亦自給自足の天產國であるといふ自己陶醉をやつて、永く舊習を改めないで、爲政家は苛斂誅求と政權爭奪に没頭してゐるから、政治は段々と悪くなつて、其結果茲數

年來農業國たる支那へ三億海關兩以上の農産品が年々輸入するに至り、豐饒を祝すべき昭和八年さへ穀賤傷農の聲は全面に叫ばれ、農村疲弊はひいて購買力の減退となり、高率關稅を課せられた輸入製品のみならず、支那自身の物産も賣れなくなつて容易に景氣は戻らないらしい。

支那の貿易は昭和四年迄の十年間は毎年輸入超過二億海關兩であつたが、昭和五年度は四億五千萬兩、昭和七年は五億五千七百萬兩の入超が出来た。さうしてその入超は農業國より支那へ農産品を輸入といふ形に著しく、毎年入超の六割は米・麥及棉の類である。そこでこの三つを自給したならば輸入超過の六〇％を補填ができるが、支那で食料農産は奉天・黑龍江・熱河・察哈爾から其他需要の倍を産する外北方は自給自足、河北・山東・河南は一割二分不足、江蘇・安徽・湖南・江西は自給、四川・雲南・貴州は八分の餘剩で、福建・廣東・浙江は四分の不足であるから、滿洲の獨立はその産額七十三億斤が分離しただけでも、支那の經濟にはこたへる。

支那の貿易貸借尻は毎年二億元以上といふ華僑六百萬人の送金があつて、之を決済にあてたが、華僑は近頃不景氣となり、支那唯一の出超地たる滿洲が獨立した結果、支那は毎年五億兩づゝ消耗する結果となつて、結局支那は經濟的に亡ぶであらう。

支那の農産物たる生糸・茶・卵・桐油等の品の輸出増加は品質の改良をしなかつたために段々減少して國富はまさぬ、加

ふるに支那には防穀令があるために隣省隣縣が凶作でも、凶作でない土地から移入することさへ防穀令でとめるから、農業の改良をやつても駄目となつてゐる。そこで米・麥なども、自國內から買はずして外國産を輸入する。昨年は約二億萬元の外米が入つた。これは支那米が品種雑多となり、生産量も一畝二擔半乃至三擔で、少い上に運送方法に缺陷がある。且度量衡が不統一で取引が圓滑にならない。麥も米と同じく外麥が五千萬兩入つた。さうして自國品の運搬費は高い。

同時に農村に課税が多い、地租の外に養蠶・茶・生繭等にも各種の苛税がかかる、かくて農民は麥を田にすてゝ刈らないものさへ出来、苦力になるものが漸増しだした、かくて農村資金は枯渇して購買力も弱はつてゐる。この目前の支那を救ふ道は第一は苛税の廢除であるが、軍閥のある限りさうしたことは出来ない、支那の前途ほど混沌たるはないであらう。

○米國に於ける燐寸

燐寸に三種あつて、日本など普通の安全マツチ(箱に藥のついたもの)は軸木が短かく一箱内の燐寸数は百本以内、軸頭に藥品一色がつく、これを箱の側ですると發火する。第二はダブルチップといひ軸木の先きについた藥の外側は酸化劑であり、中には發火藥がある。二重であるから、どこで摩擦しても火がでる。この方は一箱内に燐寸数は概ね五百本入である。第三はブック燐寸で、屢々廣告用に供せられ、摩擦用として特殊裝置を施せる面付のボール紙内に二十本二側に併列綴込みになつてゐる。木軸のものは

安全マツチといひ軸木に藥物を滲入して發火後軸木の燃え切るを防止してある白色燐光性物を含むものは禁止されてゐる。

米國でつくられる燐寸は主として第二の型が多い、自動機械で一日一億七千五百萬本を造り之を箱入として積出準備まですべて自動式であるといふ、一九三二年迄はクルーゲルの力で瑞典が多量の燐寸をつくつたが、クルーゲル社破綻の後ロシアが近年異常な發達をしめしてゐる。そのつぎは日本の燐寸である。一九三二年には米國の國內消費はすべて米國製で足つた。その産額一千八百萬弗に達したが、一九二九年の二千萬弗に比して減産であつた、しかし輸入も一九二九年は三百四十萬弗に達したが一九三一年には百四十萬弗に減退した、不景氣でマツチも消費がへつたのである。獨逸については日本からの輸入が多かつた。日本製安全燐寸(色付軸)は輸入税及消費税支拂済ドツク渡一グロス三十八仙乃至五十二仙であるが、ロシアは日本品と競争上、日本製燐寸卸値段に對抗すべく自由にその値段を變更する政策をとつてゐる。色附軸が主であるがロシア製白軸は日本製燐寸よりも二仙高を稱へる。瑞典のマツチは輸入税消費税支拂済ドツク渡一グロスにつき七十仙乃至七十五仙であつて日本品よりも高級である。

○日本工藝品と紐育市場

從來本邦の工藝品は骨董品と共に販賣される高級品と、百貨店の粗悪工藝品との二種が

あるが、中間の工藝品は容易に出ない、少し好評になるとすぐ安物をつくるので、失敗するが、紐育で工藝品としてうれてゐるものは第一灰皿一箇二十弗位のものに鍍金製とか七寶製がある。九谷焼模造品半ダス一弗六十仙乃至六弗、食器皿類には小型珈琲茶碗一組一弗五十仙乃至五弗、花瓶では陶磁器及鍍金製又は七寶で一箇八十弗乃至二千弗といふ高級品もあるが、安物では薩摩焼花瓶三弗、伊萬里焼花瓶一箇五十仙、鍍金ブロンズ一箇二十五弗見當、鍍金ブロンズ香爐一箇四、五弗のものが出る。巻烟草箱にも漆工と七寶がある。硝子製品では卓上用ランプ類小型二弗位大型二十弗以上、額縁・盆類等相當に出る。工藝品として五千點以上もある中で本邦製として輸出の見込は多い。シガレット・ボックス等も見込がある。自粉コンバクトなども見込がある。蓋し本邦の工藝界は歐米の如何なるものでも模倣が出来るし價格も安いから進出も早かつた。けれども創造力が足りないので流行におくれるので需要されなくなる傾が多い。これは全く日本の氣候風土の關係上南方文明の流をくみ衣食住何れも清楚淡泊、簡易を旨とし夏向の嗜好を基礎としたものであるが、西洋及支那は冷帶文化であるから全くこれに適合しない。西洋文化への實用性と配合性が缺ける。これは日本の工人の常住座臥が全く西洋や支那人からかけはなれてゐる結果である。

ことに工藝品に重要な色彩は、日本の氣候と全くちがう西洋や支那の色彩と全く反對するので日本人の眼に毒々しい

色も先方では當然だといふ工合になるので日本色彩の基調と西洋色彩の基調は全くちがう、室内に坐臥する生活からは寢臺・椅子の西洋式生活に調和しない。我等はかうしたハンディキャップを心得て西洋人に適する工藝品を作らねばならぬ。

○北滿洲の毛皮

北滿毛皮の貿易中心はハルビンで、米英兩國を始め諸外國の大毛皮商代表者が集中してゐるが、日本はまだ干與しない。支那人の毛皮商は傳家何に三十軒以上もある。但し昭和五年以來不景氣で昨年も閑散であつたが、黒貂は出物が少かつた。北米の需要が減少したので損をした支那人が多かつた。類は主として支那人の外套の襟になるが松花江や黒龍江からとれる。一枚五十元であるが不足した、コロノク(貂鼠)は滿洲の重要商品で吉林の産がよい。紐育向で二十萬枚の産があり、一枚七元見當である。ソロンゴイ(貂鼠)は黒龍江省、大小興安嶺から出る。米國向輸出であるが四千枚を出した。一枚二元、浣熊(但し之は浣熊の形をしただ)は吉林・黒河等に出て絹様の毛をもつ四千枚程度産出し一枚四十元、として米國に輸出される。狸、バルスークも亦米國向であつて一萬五千枚で一枚八元、ロツンハマは其品極めて渺い、白狐は歐米の流行品であるが、蒙古産が多く一枚二十八元乃至三十五元、ハルピンをへて海外に輸出されたもの三千枚、赤狐は富錦から出て三千枚一枚は四十元乃至六十元、高原産狐はホロンバイルから出て六千枚、輸出品である。高原産狼も二千枚出たが三十五元位で紐育及ロンドンに

送られた、山狼も亦千枚位輸出された、山猫もあるが輸出に向かない。インクスは米國向で平均五十元で一十枚を出した。褐色熊は毛が粗いから十二元位、栗鼠は五萬枚も出て一枚二元、虎の皮は八十元乃至二百元であるが數が出ない。豹の皮は六十元程度、兎の輸出は少くなつた。犬毛皮も近年紐育倫敦から注文が入つたが、米國の需要が減じた。要するに北滿の毛皮では昨年度のシーズン(十一月より四月まで)八十三萬枚三百二十萬元に上つたが重要なものはコローク・犬及びソロンゴイの三者であつた。

質疑應答

問 滿洲國有鐵道とは何々であるか。(山形・I生)

答 滿洲にはソウイェットの關係する北滿鐵道一、七二〇軒及び南滿洲鐵道一、一三〇軒の外に國有鐵道三、三五〇軒がある。この國有鐵道は借款一億三千萬金圓の擔保として其經營は滿鐵に委託された。その重なるもの左の如し。

一、奉山線……奉天・山海關間、昭和七年獨立、支線に錦州、北票間、葫蘆島支線、大虎山・通遼間支線がある。この線はもと北京までの北寧線であつて英國から二百三十萬磅の借金で出来たものであるから、對英借款一九三二年度六五、八五〇磅八片と同年九月に、中英公司代表に支拂ひ、爾後規定額を支拂つてゐる。

二、瀋海線……奉天—朝陽鎮間、支線、梅河口—西安間。
三、吉海線……朝陽鎮—吉林間。

四、京圖線……イ、吉長線(吉林—長春間)、ロ、吉敦線(吉林—敦化間)、ハ、敦圖線(敦化—圖們間)全長五二八軒、大同二年五月開通。

五、四洮線……四平街—鄭家屯間、通遼—鄭家屯間、鄭家屯—洮南間。

六、洮昂線……洮南—昂々溪間、大正十四年滿鐵が千二百九十二萬圓で敷設したが、張作霖は工事中の利息や經費を拂はなかつたものである。

七、洮索線……洮安—懷遠鎮。

八、齊北線……チ、ハル—北安二百三十軒間、この中齊克線とて泰安から克山間は事變後に出来たが、克山から北安迄も事變後に出来た。北安から東は賓北線といふ。

九、賓北線とはハルビン對岸から海倫まで、元來呼海線といひ、海倫から克山までは海克線といひ、この方は事變後に出来た。今日では北安までを賓北線と呼ぶのである。北安鎮は克山の東北にあつて、こゝから北は陸路龍鎮をへて愛理に通じ、一方訥河支線とて齊北線の拉哈站から訥河まで事變後に出来たが、北上して墨爾根をすぎ黑河に連絡せんとするのである。文檢の問題に出た海克線といふ名は今日は無くなつた。賓北線は目下松花江鐵橋築造中で拉賓線に連絡する。

一〇、拉賓線……京圖線の拉法(吉林の東)から哈爾濱に達する一大幹線である。昨年末に出来た。(F)

〇第二十一卷 第二號 下段二行目 正誤

誤 職を奉ずる
正 研鑽中なる